



キャンパスライフに関する アンケート調査の見直し

教育状況のふり返りや、より良い教育プログラムの開発を目的として、2004年度より（3年次調査は2006年度より）毎年3月下旬に「キャンパスライフに関するアンケート調査」（以下、CL調査）を実施してきたが、紙媒体の調査票による調査からWEB調査に切り替えた2018年度以降、回収率の大幅な低下が認められる。また、WEB調査への変更に伴い調査期間が長期化し、年度をまたぐことになったため、回答した時期によって年度が異なるといった状況が生じ、調査の基準とした年度を回答者が誤解したことから回答内容にブレが生じるといった問題も発生することになった。更に、回収率を上げるために紙媒体の調査票を併用したところ、WEBと調査票での重複回答による「死票」が一部発生することにもなった。

これらの問題への対応として、2021年度より調査の実施要領や内容を次のとおり見直した。

1. 調査方法の一本化

調査票を使用せず、WEB調査のみでの実施にしたことにより、重複回答による「死票」の発生を回避することが可能となった。また、調査票による回答のデータ入力処理が不要となり、学内への調査結果報告までの時間と、2018年度の調査より実施している調査結果の学生への個別フィードバックまでの時間を短縮することができた。

2. 調査対象の変更と「入学時調査」の新設

1年次生と3年次生を対象としていたところ、2年次生も対象に加えた。また、2022年度より、新たに新入生を対象とした「入学時調査」を開始することとした。

これにより、在学期間中のアセスメント情報の収集回数が増え、学生の成長をより詳細に把握することが可能となった。

3. 調査時期の変更

調査時期を年度末から11月に前倒しした。これにより、回答期間が年度をまたぐことがなくなり、回答内容のブレを解消することができた。

また、従来、翌年度の秋頃に実施していた学生への個別フィードバックを、当年度3月に早めることが可能となった。これにより、学生は今までの自分の学びをセルフチェックしたうえで、新年度に向けての学修計画を立てることが可能となった。3年次生については、就職活動において自身の成長実感を説明するための参考情報・エビデンスとして利用することもできるようになった。

学生が自分の学びに主体的に取り組む契機として、フィードバック情報を積極的に活用できるように機能強化することにより、学生の自発的な回答を促し、回収率の改善につなげたい。

4. 調査項目の見直しと再編

毎年度調査する項目を厳選し、「定番項目」とした。数年に1度の調査でも傾向把握が可能な項目は「可変項目」とし、「可変項目」にはタイムリーな調査項目も設定できるようにした。

各部課が個別に実施するアンケート調査を、できる限り「可変項目」に設定のうえまとめて実施することにより、学生の回答負担を軽減する。また、データ集積の一元化を図り、学内で共同活用できる基盤を整備することを目指す。